

<参考> 大和北道路に関するこれまでの検討状況

■国土交通省の検討経緯

- 2001年7月～2002年 3月 地下水検討委員会での検討
 - ・道路事業予定区域について、地下水の現状分析、道路建設による地下水挙動について予測評価を実施
 - ・京都大学大学院工学研究科 大西教授他4名の学識経験者で構成

- 2002年3月～2002年 7月 文化財検討委員会での検討
 - ・平城京跡及びその周辺地域について、埋蔵文化財保護への配慮事項を検討
 - ・学習院大学文学部 笹山教授他7名の学識経験者

- 2002年9月～2003年10月 大和北道路有識者委員会での検討
 - ・道路事業の透明性を確保するためPI手続きを導入し、推奨すべきルート及び構造について提言
 - ・近畿大学経営学部 斎藤教授他5名

■奈良県都市計画審議会での手続きの状況

- 2004年11月～2004年12月 環境影響評価方法書 公告縦覧
- 2006年 6月～2006年 7月 都市計画案について地元説明会実施

■ユネスコ関係の経緯

- 2003年 6月～2003年 7月 第27回世界遺産委員会開催[パリ]
 - ・世界遺産の保存を確実に行うこと
 - ・引き続き地域住民に対する情報提供に努めること 等
- 2004年 2月 日本政府が世界遺産委員会に書簡を提出
 - ・現在までのPIを含む検討状況について報告
- 2004年 6月～2004年 7月 第28回世界遺産委員会開催[蘇州(中国)]
 - ・世界遺産の保存を確実に行うよう引き続き努力すること
 - ・地下水に対する影響を最小にすること
 - ・引き続き地域住民等に情報提供すること 等
- 2006年 2月 日本政府が世界遺産委員会に書簡を提出
 - ・現在の検討状況（トンネル構造による地下水への影響、地域住民等への情報提供など）について報告

第 30 回世界遺産委員会の決議内容(「古都奈良の文化財」抜粋)

The World Heritage Committee

1. *Having examined Document WHC-06/30.COM/7B,*
2. *Recalling Decision 28 COM 15B.64 adopted at its 28th session (Suzhou,2004),*
3. *Takes note of the information provided by the State party of Japan concerning the progress made in the elaboration of the Environmental Impact Assessment (EIA) for the proposed execution of a highway through the northern Nara prefecture;*
4. *Appreciates the efforts of the Government of Japan to clarify the nature of the traffic congestion which the new highway is meant to address, and to analyze the impacts of the tunnel building on the water table for the chosen route;*
5. *Encourages the State Party to consider the possibility of entrusting the elaboration of the Environmental Impact Assessment for the highway project to an independent consultant hired for that purpose;*
6. *Requests the State Party to ensure that the Environmental Impact Assessment include consideration for alternative options for the route of the Highway, as well as a cost-benefit analysis demonstrating that the option being suggested, with the necessary mitigation measures, offers least potential impact to the Nara World Heritage property;*
7. *Also requests the State Party to submit to the World Heritage Centre, by 1 February 2007 at the latest, a report illustrating the outcome of the Environmental Impact Assessment, as well as the process followed for its elaboration, for examination by the Committee at its 31st session in 2007. Such report should be submitted as soon as the EIA process is completed and in any case before decisions that would be difficult to revert are taken concerning the project for the Highway.*

参考(国土交通省近畿地方整備局仮訳)

世界遺産委員会は

1. WHC-06/30.COM/7B の文書を検討した。
2. 第 28 回会議(蘇州、2004 年)で採択された 28 COM 15B.64 を確認する。
3. 奈良県北部を通過する高速道路の建設計画のための環境影響評価の進捗状況に関して、日本の政府関係者によって提供された情報を記録する。
4. 新たな高速道路により解決される交通渋滞の性質を明らかにし、選択されたルートについてトンネル建設が地下水位に及ぼす影響を分析した日本政府の努力を評価する。
5. 締約国に対し、高速道路建設計画についての環境影響評価のとりまとめを独立したコンサルタントに委託することを検討するよう促す。
6. 最も有力視されているルートが、奈良の世界遺産への影響を最も少なくできることを証明するため、環境影響評価において、費用便益分析のみならず、高速道路の代替ルートの検討を含むことを確保するよう締約国に対し要請する。
7. また、2007 年の第 31 回の委員会による審査のために、遅くとも 2007 年 2 月 1 日までに環境影響評価の結果とその作成のためにとられたプロセスを記述した報告書を世界遺産センターに提出することを要請する。この報告書は、環境影響評価の手続きが完了次第提出されるべきであり、いかなる場合においても、高速道路の建設計画において、翻すことが困難になる決定がとられる前に提出されるべきである。